令和２年６月３０日

今日のシライ中

白井の愉快な仲間たち　VOl.11

６月 26 日裏庭にて

アマガエル

今日は、日本中どこでも見られる、かわいらしいカエル「二ホンアマガエル」を中心に、カエルの話あれこれです。白井中の色々な葉っぱの上で見かける「二ホンアマガエル」は、気圧を読むことができ、雨の降る直前などに鳴き出すといわれています。

ちなみに、カエルのうち、鳴くのはオスで、メスへの求愛行動が主な目的です。白井中の職員玄関脇の小さな池に、一昨年はたくさんカエルの卵が産みつけられていました。皆さんは、カエルの卵、見たことありますよね？透明なチューブの中に、黒くて丸い卵がお行儀よく並んでいる、あれです。そして、もちろんそこから生まれてくるのは「オタマジャクシ」です。あの姿から「脚」が生え、「尾」が消え、カエルになりますね。

さて、皆さんは、「オタマジャクシ」が実は自分のタイミングで「カエル」になる時期を選んでいるって知っていますか？そもそも、あんなにたくさんの「オタマジャクシ」です。それが、一斉に同じタイミングでカエルになったのでは、生き残るのが大変です。（もちろん、「オタマジャクシ」の段階でも結構な数が食べられてしまいますが・・・。）そこで、「オタマジャクシ」は考えました。

A『僕はとりあえず早くカエルになろう！エサはそこそこでいいや。そして、早くお嫁さんを見つけよう！』B『私はもっとエサをたくさん食べ、大きくなってからカエルになるわ。その方が食べられないんじゃないかしら。』このように、それぞれが、棲んでいる環境、個体数などの条件に合わせ、「カエル」になる時期を選んでいるのです。（もちろん、そんなに長い期間での選択は無理ですが・・・。）だから、早めに「オタマジャクシ」を卒業した「カエル」は小ぶりで、「オタマジャクシ」の段階でたくさんエサを食べた「カエル」は体が大きいのです。こんなかわいい「二ホンアマガエル」ですが、近年は環境破壊の影響もあり、めっきり数が減ってしまったそうです。

さて、この両生類のカエル、爬虫類のヤモリ（両生類と爬虫類の違いは何でしょう？調べてみてね。）の指先の吸盤、どんなつるつるの面でも落ちずにいられますよね。そこに注目した企業が、この能力を取り入れた製品を開発中です。「カエル」の天敵「ヘビ」の動きを取り入れたロボットが災害救助に活躍したり、生物から学ぶことは、まだまだたくさんあるようです。（**おまけ**　「三すくみ」という言葉があります。三種の生き物それぞれに得意・不得意の相手があり、三種が顔をそろえたとき、お互いに動きが取れない様子を言います。カエル・ヘビともう一つは何でしょう？答えは、・・・ナメクジです。えっ、どうして？と思った人は調べてみましょう！）

また、日本のカエルではありませんが、「森の宝石」と呼ばれているカエルがいます。次のどれでしょう？Aモリアオガエル　Bゴライアスガエル　Cヤドクガエル　正解はCのヤドクガエルです。漢字で書くと「矢毒蛙」です。奇抜で美しい色をしたカエルですが、抽出した毒を矢じりに塗り狩の武器としました。奇抜な色は「警戒色」といわれるものです。自分は猛毒の持ち主だから、絶対食べないで！というアピールです。小さな「カエル」にも、様々な戦略がありますね。「二ホンアマガエル」もいる場所によって体色を変え、目立たないようにしています。今度出会ったら、ゆっくり見てくださいね。